

組織的な若手研究者等海外派遣プログラム報告書

氏名： 藤田 素子	提出日：平成 23 年 8 月 22 日
東南アジア研究所における職名：特定研究員（グローバルCOE） * 右記の該当する職位に○をつけて下さい。（講師・助教・助手 <input checked="" type="checkbox"/> ポスドク <input type="checkbox"/> 博士課程学生・ <input type="checkbox"/> 修士課程学生・ <input type="checkbox"/> 学部学生）	
派遣先の研究機関等（調査を実施した国名・機関名（日本語で記載）及びカウンターパート名）： インドネシア・リアウ大学・Ahmad Muhammad氏 / マレーシア・サラワク博物館・Charles Leh氏 * 派遣先の研究機関等の種類について右記の該当する箇所○をつけてください。（ <input checked="" type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 研究機関 <input type="checkbox"/> 企業・その他）	
派遣先の研究機関等での職名：なし	
派遣期間： インドネシア：平成 23年 7月 14日 ~ 平成 23年 7月 21日（派遣日数：8日） マレーシア：平成 23年 7月 22日 ~ 平成 23年 8月 8日（派遣日数：18日）	
研究活動等の主な内容（該当する番号に○をつけてください。複数可） <input type="checkbox"/> ①研究・実験 <input checked="" type="checkbox"/> ②フィールドワーク <input type="checkbox"/> ③セミナー <input type="checkbox"/> ④インターンシップ <input type="checkbox"/> ⑤サマースクール等の講習 <input type="checkbox"/> ⑥学会出席 <input type="checkbox"/> ⑦単位取得等 <input type="checkbox"/> ⑧その他	
研究活動の主な領域（該当する番号に1つ○をつけて下さい。） <input type="checkbox"/> ①人文学 <input type="checkbox"/> ②社会科学 <input type="checkbox"/> ③数物系科学 <input type="checkbox"/> ④化学 <input type="checkbox"/> ⑤工学 <input checked="" type="checkbox"/> ⑥生物学 <input type="checkbox"/> ⑦農学 <input type="checkbox"/> ⑧医歯薬学 <input type="checkbox"/> ⑨総合領域 <input type="checkbox"/> ⑩複合新領域	
派遣の概要（500～700字程度） <p>7月中旬のインドネシア・リアウ州における調査では、リアウ大学のAhmad Muhammad氏の協力のもと、これまで続けてきたICレコーダーを用いた鳥類録音システムの一部データ回収と、モニタリングシステムの不具合に関するチェックを行った。また、目視観察データが欠損していた天然泥炭林において、目視観察および録音を行った。</p> <p>7月下旬から8月上旬にかけてのマレーシア・サラワク州における調査では、Bintulu周辺におけるアナツバメ養殖ハウスおよび自然洞窟でのツバメの糞のサンプリングを行った。養殖ハウスではすでにオーナーに継続サンプリングをお願いしているが、自然洞窟においても協力者を得て、サンプリングが可能となった。また、周辺環境における餌生物（飛翔昆虫および植物）のサンプリングを、オイルパーム園、丘陵林、淡水湿地林、泥炭湿地林などで行った。また、KuchingではCharles Leh氏の協力のもと、これまでサンプリングを行ってきたツバメ養殖ハウスで、再度サンプリングを行った。また、車で移動中のルート沿いに見られたツバメハウスの位置をGPSで落とし、地域ごとのツバメハウスのマッピングを行った。</p>	
事業に係る研究成果（500～700字程度） <p>本派遣のインドネシアにおける成果は、これまでのアカシア林・天然泥炭林の鳥類音声録音データに加えて、村における録音データが得られたことである。また、目視観察データがなかった天然泥炭林で観察を行うことができたために、データが相互に補完され、より信頼性の高い結果が得られた。</p> <p>本派遣のマレーシアにおける成果は、これまでのKuching周辺におけるツバメハウスのデータに加えて、Bintuluのツバメハウスを開拓できたことにある。Bintuluではチャイニーズマフィアの独占が進み、外部のものに対してオープンではないために、チャイニーズ以外（イバン、マレー、カヤン）のオーナーを探し、合計3つのハウスで各10サンプル程度のサンプリングを行った。サンプルは50度で乾燥させたほか、一部は99%エタノールを入れて保存した。一つのハウスでは、ツバメの巣採集に立ち会うことができ、ハウス全体の巣の数と状態を数えることができた。全ての巣2350巣のうち、卵やヒナのない653巣を採集し、その割合は27%程度であった。また、Baram川流域のLong Laput村を訪れ、自然洞窟にあるツバメコロニーに入ることができた。洞窟ではコウモリの糞と区別が付きやすいよう、新しい糞だけを採取し、エタノールで保存した。また、これまでの予備的な実験の結果を踏まえたCharles氏とのディスカッションでは、今後も定期的に糞のサンプリングを行ってくれることを提案され、実りのある議論ができた。</p>	